C-1-2

甲状腺機能低下症に罹患した犬に対する 還元型CoQ10による皮膚・被毛症状および活動性の改善

表1．還元型 CoQ10 の給与量

体重	給与量
10 kg 未満	50 mg(カプセル1粒)
10~20 kg	100 mg(カプセル2粒)
20 kg 以上	150 mg(カプセル3粒)

表3．甲状腺機能低下症を呈する犬に対する還元型 CoQ10 給与が皮膚・被毛の状態，活動性および食欲に及ぼす影響
（ウィルコクソン符号順位検定）

平均値±標準誤差を示す（N＝14）。給与前に対する給与後の各時点についてウィルコクソン符号順位検定で評価した。
＊：$P<0.0167$，＊＊：$P<0.00333$（ボンフェローニ補正後）
※：検定未実施

	給与前	給与1カ月後	給与2カ月後	給与3カ月後
皮膚	2.00±0.18	2.57±0.29	3.07±0.32**	3.50±0.34**
被毛	1.93±0.20	2.50±0.29*	3.14±0.33**	3.50±0.34**
活動性	3.07±0.27	3.50±0.25	3.79±0.21*	3.86±0.21*
食欲※	3.57±0.25	3.79±0.24	3.71±0.22	3.71±0.22

【試験方法】

- 試験デザイン：オープンラベル
- 対象：甲状腺機能低下症に罹患している飼育犬 16頭
  ※脱毛、皮膚炎を主訴とし、一般薬物治療で改善なし

食品：3ケ月間給与
還元型CoQ10カプセル（50mg/粒）を体重に合わせ1～3粒（表１）

- 評価：スコアリング（皮膚・被毛の症状、活動性、および食欲）

【結果】

被毛症状（脱毛）は還元型CoQ10給与1ケ月から3ケ月までの全検査期で、皮膚症状と活動性は給与2および3ケ月の検査期で摂取前と比べて有意に改善した．（表３）

（山崎聡ら，CAP, 2022，9月号:88-90 より作成）

還元型CoQ10給与で皮膚症状が改善した代表例

図1．症例1

a：投与前　b：投与1カ月　c：投与2カ月
トイ・プードル，13歳齢，去勢雄，7.4 kg，還元型 CoQ10 給与量：50 mg SID
内服薬：チラーヂン® S錠 13.5 μg/kg BID
甲状腺機能低下症と診断され，チラーヂン® S錠で治療中であるが定期的に皮膚炎や外耳炎を繰り返していた。
還元型 CoQ10 給与により皮膚・被毛の改善が認められ，外耳炎も落ち着いてきた。また，活動性が向上し散歩の回数も増えた。

図3．症例3

a：投与前　b：投与1カ月　c：投与2カ月　d：投与3カ月
柴，14歳齢，避妊雌，11.5 kg，還元型 CoQ10 給与量：100 mg SID
内服薬：チラーヂン® S錠 8.7 μg/kg SID，ファロム錠 4.3 mg/kg BID，ゼスラン錠 0.13 mg/kg BID，ウルソ® 錠 8.7 mg/kg SID
1歳齢あたりから皮膚の痒み，脱毛がみられアトピー性皮膚炎と診断した。現在も季節によって痒みの悪化，脱毛を繰り返しており，その都度，内服薬や外用薬で治療していた。また11歳齢で甲状腺機能低下症と診断したため，チラーヂン® 錠を追加投与した。皮膚・被毛の改善を期待し，試験対象とした。
試験当初は痒みがひどく皮膚の苔癬化が重度であったが，徐々に皮膚が柔らかくなり鱗屑も減少した。還元型 CoQ10 給与により発毛は促進され，色素沈着が薄くなった印象がある。